

北信教育事務所だより

第7号

令和2年10月19日(月)

～教師・学校・地域がつながるために～



『まなびすけ信州』 はじめました!!

<自宅での学習支援> (児童・生徒用)



※誰でも視聴可



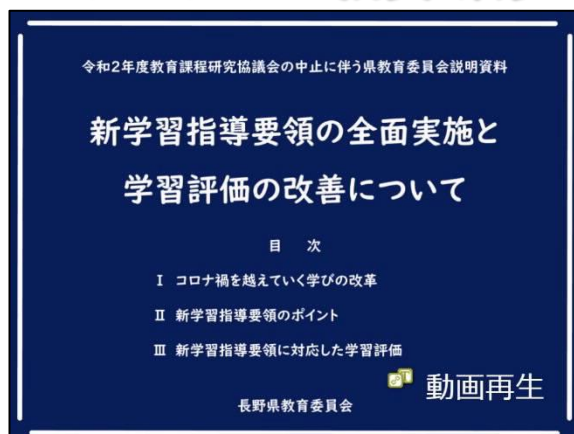
・URL:

<https://manabisuke.airlibro.jp>

学級・学年通信等で
保護者にもご紹介
ください。

「いっしょに学ぼう」
家庭学習サポート動画
を閲覧できます。

<オンライン教員研修> (教員用)



※教員のみ視聴可

※ID及びパスワード入力
(各校に配布済み)

・URL: <https://teacher-manabisuke.airlibro.jp>



職員会議、職員研修、教科会など、
研修の形に合わせて、いつでも
見ることができます。

令和2年度教育課程研究協議会の中止に伴う県教育委員会説明資料も閲覧できます。
(各教科・領域含む)

今後、教育にかかわる情報や研修等の情報も随時更新していく予定です。
まずはアクセス!ぜひ、お気に入りに登録していただき、ご活用ください!!

「令和2年度全国学力・学習状況調査」から 今求められている力が何かを考え、授業改善に生かす

本年度、実施が見送られた「全国学力・学習状況調査」の問題冊子が文部科学省から各学校に配布されました。テスト形式として実施したり、授業で扱ったりと、学校で様々な取組がされています。「今、どんな力が求められているのだろう」「この問題を解けるようになるには、どんな授業をしていけばいいのだろう」と、問題からのメッセージを受け取りながら、ともに授業改善のヒントを考えていきましょう。

小学校 国語科編

目的に応じたメモの取り方を工夫することが できるようにしましょう

この資料は、今年度の小学校国語【1】の出題にあたって設定された取材の場面です。課題に対して自分の考えをもった青木さんは、家の人・スーパーマーケットの店長に続いて、近所の【一人暮らしの森さん】に取材をして、その内容を【メモ③】にまとめました。

1

青木さんの学級では、食生活について興味をもったことを調べ、学級の友達に発表をすることになりました。青木さんは、インスタント食品について調べています。次は、「青木さんの考え」です。

「青木さんの考え」

インスタント食品にはどのようなよさがあるのだろう。ぼくは、簡単に作ることができておいしいところだと思ふけれど、他の人は、どのようなよさを感じているのかな。家でも食べることがあるから、家の人に聞いてみよう。

「一人暮らしの森さんの話」

インスタント食品は、調理が簡単です。一人分だけ作ることができるので、作りすぎたり、食材をむだにしたりすることが少なくて助かっています。それに、年をとると買い物に行くのも大変ですが、インスタント食品は長持ちするので、買い置きができて便利です。

【メモ③】

4/19 (日)

○取材をした相手

一人暮らしの森さん

○インスタント食品のよさ

・一人分だけ作ることができるから作りすぎない

・食材をむだにすることが少ない

・長持ちするから

買い置きができる

★はメモに
ない！

授業改善のヒント

《授業でこんな子どもの姿を見ませんか》

目的の地までの道順を説明する友達の話をメモを取りながら聞く学習場面で、相手が話したことを全てもらさず、そのまま書いている児童がいます。話す側の児童も、聞き手がメモを書き終わるのを待って、説明をしている姿が見られます。

ここでは青木さんが自分の知りたかったことを中心にメモを書き留めていることを捉える必要があります。なお青木さんは「簡単★」というよさは取材前に考えていたことであり、メモには書き留めないという工夫もしています。

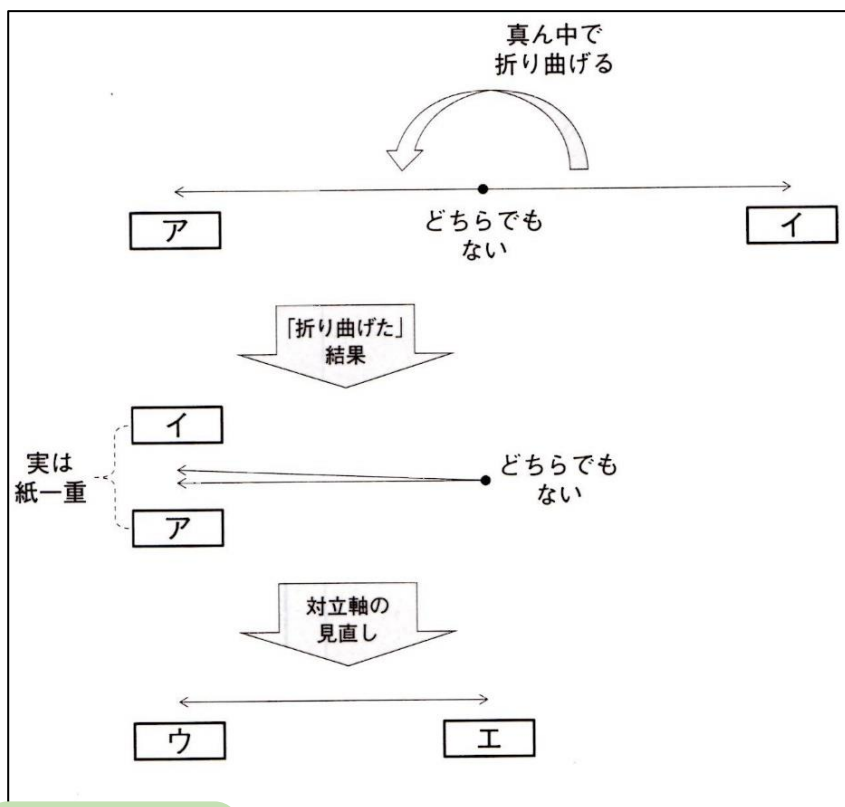
【ポイント】 何についての話（説明・連絡・報告・お願い・お知らせ等）かを捉え、あらかじめ聞きたいことを書き留めておくなどして、メモに取るべきことは何かを考えながら聞くという構えを、普段の生活の中から子どもにもたせることが大切です。

〔箇条書き・見出し・短い言葉・記号・線や枠・ひらがなの多用〕といった子どもたちなりのメモの工夫を認めていきましょう。

書き手の考えを別の具体例に当てはめて 考える活動を位置付けましょう

四

——線部④「ぜひ読者の皆さんの身の回りでも探して『半分に分けて』違う見方で考えてみて下さい」とありますが、次の図の
ア、イ、ウ、エに入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを、あとの1から4までのの中から一つ選びなさい。



授業改善のヒント

全国学力・学習状況調査の問題は、実際の課題把握や追究の場面を想起させ、学びの道筋を、問題を解くことで味わうことができる工夫がされています。右のような、筆者からの問いかけに対して自分の生活を結び付けてみる授業場面も思い浮かびます。生徒は友達と話し合いながら、いくつかの具体例を基に、筆者の考えを捉え直すことでしょう。

【ポイント】 仮に筆者の考えに当てはまらない具体例が見つかったとしても、「なぜ当てはまらないのか」を考え、説明できる機会を生徒に保障しましょう。

筆者の考えに「当てはまらない具体例」が出てきたときに、「それは当てはまらないから違うね」で追究が終わらないようにしたいところです。

筆者の考えを踏まえて「考えた例が当てはまらない理由」が説明できれば、それは**文章の内容を捉え、書き手の考えを理解すること**につながります。

- | | | | |
|------------|----------|---------|---------|
| 4 | 3 | 2 | 1 |
| ア | ア | ア | ア |
| コンクールで入選する | 一步前進する | 文章を追加する | 判断を示す |
| イ | イ | イ | イ |
| コンクールで落選する | 状況が変わる | 文章を削除する | 判断を示さない |
| ウ | ウ | ウ | ウ |
| 物事に挑戦する | 一步後退する | 情報を増やす | 提案を肯定する |
| エ | エ | エ | エ |
| 物事に挑戦しない | 状況が変わらない | 情報を減らす | 提案を否定する |

ところで、この設問の正答は4でした。では1～3の選択肢は、ア・イ・ウ・エのどこをどう直せば筆者の考えと合致するのでしょうか。全国学調「解説資料 中学校 国語」P27にもこの内容について触れられていますので、参考にしてください。



小学校 算数科編①

既習の内容を基にしながら、 計算の仕方を考える活動を位置付けましょう

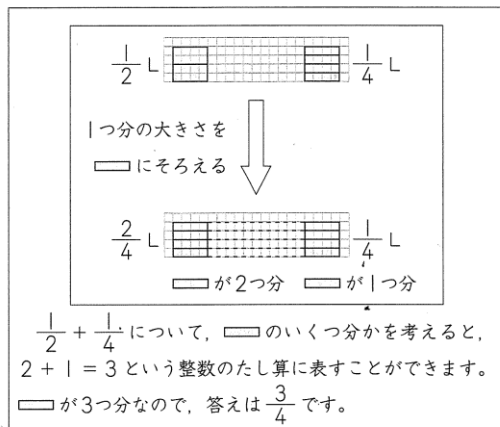
3

ようたさんたちは、分数のたし算について考えています。

(1) $\frac{1}{3} + \frac{2}{5}$ の計算をしましょう。

(3) 次に、はなこさんは、 $\frac{1}{2} + \frac{1}{4}$ について、下のように考えています。

【はなこさんの計算の仕方】



【はなこさんの計算の仕方】の中の、1つ分の大きさの□は、どれも同じ大きさで、次のように説明することができます。

1つ分の大きさの□は、 $\frac{1}{4}$ Lを表しています。

上の文の④に入る数を書きましょう。

左の問題は、今年度の全国学力・学習状況調査 小学校算数③です。計算の仕方を解釈して検討したり、統合的に考察したりすることができかどうかをみる問題として出題されています。(設問(2)(4)は、省略)

設問(1)は、異分母分数の加法の計算をすることができるかどうかを、設問(3)は、示された計算の仕方を解釈し、異分母の分数の加法における単位分数の大きさを捉えることができるかどうかをみる問題です。

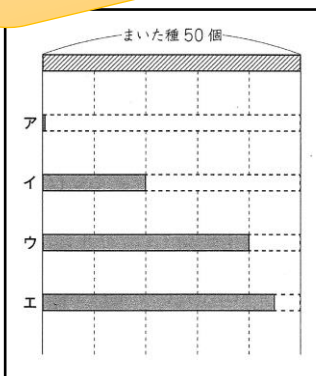
【ポイント】

- ☞ 計算をする過程では、形式的に処理するだけでなく、既習の内容を基にしながら計算の仕方を考えることができるようにすることが重要です。
- ☞ 分数の加法は整数の場合と同様に処理できることに気付けるようにすることが大切です。

本設問は、第5学年の内容ですが、ほかの学年においても(例えば、3年の小数の加減計算など)、**計算技能の習熟だけに留まるのではなく、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を考える**活動を、「数と計算」領域の学習に位置付けていきましょう。

小学校 算数科編②

割合との関連を図りながら、あらゆる場面で 基準量を意識できるようにしましょう。



④(1)では、50個の図に対して、40個を表している図を選び、40個(基準量)は 50個(比較量)の何%であるのかを書く問題が出題されています。

【ポイント】

- ☞ 割合を求め百分率を用いて表す場合、問題場面から基準量と比較量を正しく捉え、(比較量) ÷ (基準量) で割合を求めることができることを理解していることが大切です。
- ☞ 基準量を100として、それに対する割合で表す方法が百分率であることを理解できるようにすることが大切です。

小学校では、低学年の段階から「何が何の何倍か」を考える学習が位置付けられています(3年; 倍の意味、4、5 学年; 小数倍、5 学年; 分数倍など)。この「**何が何の何倍か**」を考えることは、**割合の考えの基礎**になります。数直線を用いた図や線分図などに数量を表してそれらの関係を捉えることができるように繰り返し指導し、**あらゆる場面で基準量を意識**できるようにしましょう。

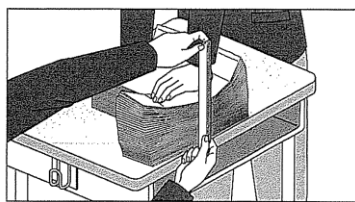
事象における数量の関係を見だし、それを的確に捉えることができるようにしましょう

〔6〕 第一中学校では、リサイクルの取り組みとして容量が1000 mLの紙パックを集めています。生徒会役員の大輝さんと葉月さんは、紙パックを集める期間を1か月間とし、集まった紙パックの枚数を、全校生徒に報告しようと考えています。

最初の4日間で集まった紙パックの枚数が思っていたよりも多かったため、二人は、1か月間で集まった紙パックの枚数を全部数えるのは大変だと思いました。そこで、二人は、4日間で集まった紙パックの枚数を、次のようにして求めました。

大輝さんの求め方

4日間で集まった紙パックの合計の厚さは16.2 cmでした。



その中から取り出した、紙パック10枚の厚さは0.8 cmだったので、紙パック1枚の厚さをすべて0.08 cmと考えると、
 $16.2 \div 0.08 = 202.5$
 したがって、4日間で集まった紙パックの枚数は約203枚です。

葉月さんの求め方

4日間で集まった紙パックの合計の重さは5742 gでした。その中から取り出した、紙パック1枚の重さは30.0 gだったので、紙パック1枚の重さをすべて30.0 gと考えると、
 $5742 \div 30 = 191.4$
 したがって、4日間で集まった紙パックの枚数は約191枚です。

(1) 前ページの大輝さんの求め方のように、紙パック10枚の厚さがわかっているとき、紙パックの枚数を求めるために、次のような考えが使われています。

紙パックの枚数を全部数えなくても、紙パックの合計の を調べれば、紙パックの枚数が求められるので、枚数を に置きかえて考える。

上の には、同じ言葉が当てはまります。その言葉を書きなさい。

左の問題は、今年度の中学校数学〔6〕です。事象における数量の関係を見だし考察する場面において、事象の特徴を的確に捉えること、数学的に表現したことを事象に即して解釈すること、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題として出題されています。(設問(2)以降は、省略)

設問(1)は、事象における数量の関係を見だし、それを的確に捉えることができるかどうかをみる問題です。

【ポイント】

- ⑦ 求めたい数量があるとき、その数量と関係のあるほかの数量を見だし、それらの関係を利用して求めたい数量を調べる場面を設定しましょう。
- ⑧ 求めたい数量に関係するほかの数量を自ら見いだすことは、主体的に問題解決を進める上でも大切です。

中学校数学科では、**具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、関数関係を見だし考察し表現する力**を3年間にわたって徐々に高めていくことが大切になります。

「関数」領域の授業において、教師が二つの数量を取り出し、「この二つの数量の関係について調べていきましょう」と進めてしまうことはないでしょうか。ぜひ、生徒自身が伴って変わる二つの数量を取り出し、どの数量を x 、 y とするかを考える場面を位置付けましょう。その際には、本問のように**観察や操作、実験する活動を位置付ける**ことも大切です。

全国学力・学習状況調査を学習指導の改善・充実に生かしましょう

- 解答類型を見ていくことにより、児童生徒がどこでどのようにつまづいているのかなどが見えてきます。そこから、どのような指導が必要かを考え、授業を工夫することが可能です。
- 小学校6学年、中学校3学年だけではなく、下の学年からつまづきがある場合もあります。問題から該当する学年を確認し、系統性を意識することで、全学年を見通した授業を展開するなど、授業計画の工夫が可能です。
- 本年度の自校での自校採点結果と関連するこれまでの調査結果の資料とを比較することで、児童生徒のつまづきやすい内容も見えてきます。
- 調査問題の枠組みや調査問題を参考にした授業づくりも考えられます。



シリーズ 信州型UD推進校の取組① 長野市立松代小学校

松代小学校のUDリーダーの先生と、LD等通級指導教室担当教員として川中島小学校に在籍している先生が連携し合いながら、信州型UDの取組を中心になって進めています。

本年度の取組（信州型UD推進校1年次）

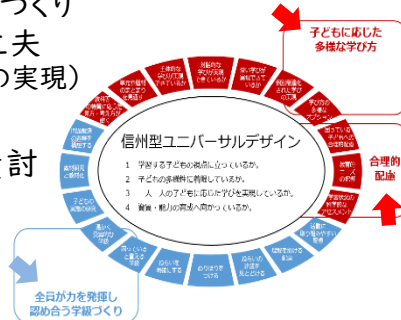
【全校研究テーマ】

「どの子ども自分を出し合い、安心して学ぶことができる授業づくり」

【重点項目】

- ① 全員が力を発揮し、認め合う学級づくり
- ② 子どもに応じた多様な学び方の工夫
(個別最適化支援の実現)
- ③ MIMによる科学的アセスメントによる実態把握と支援の在り方の検討

【学校として取り組む 信州型UDの窓口】



昨年度の取組と課題

- ① インクルーシブ教育
- ② 複数教職員指導体制

・特別な支援を必要とする児童の困難さの背景について、情報共有や共通理解をしたい。

・個別最適化を目指すためには、まず安心して学ぶことができる場（教室）をつくる必要があるのではないか。

UDリーダーの先生は、全校研究テーマを具現するために、支援の方向性を以下のように明確にしました

【松代小学校令和2年度のUDの取り組み全体図】

人的環境のユニバーサルデザイン「全員が力を発揮し認め合う学級づくり」

- 一人ひとりの違いを当然のこととして受け入れる人権感覚の育成
- 各学級における児童主体のクラスづくり（子どもと創る学習環境やルール、目標）
- 全児童が参加できたという実感を大切に児童会活動の全校スローガンづくり
- 職員研修「受容的な学級づくり」（見える環境編・見えない環境編）
- 「対話」を中心に児童と教師とが、共に考え合う授業を積み重ねる
- 相手に興味を持って、友だちの思いや考えを共感的に聞き合う姿勢づくり

授業のユニバーサルデザイン「子どもに応じた多様な学び方」

ユニバーサルデザインの視点を 生かした指導方法



- ① 視覚化
- ② 展開の構造化
- ③ 焦点化
- ④ 共有化
- ⑤ 個別的な配慮

多層指導モデル MIM

- 読みの力を高める
アセスメントを基にした指導
- 通級指導教室担当教員による
研修を2学期に継続実施



信州型UDの視点を生かした授業（6年生・国語）を公開し、研修を深めました

単元名：具体的な事実や考えをもとに、提案する文章を書こう「私たちにできること」

グループで1つのテーマを話し合い、子どもと子どもをつなぐ場を設けることで、「共有化」を図りたい



A児は、自分で選んだ課題「希少生物保護のためにできること」を解決するための提案文を考えました。友達とひとしきり話をしては書き、また楽しんで話をしては集中して書くことをくり返したA児。子ども同士がつながることで【④共有化】が図られ、A児は自分の考えを深め「世界に関わるものをかえていくのはむずかしい」と考えを表現することにつながりました。

生徒の願いが実現されることで生まれる達成感

～特別支援学校 高等部 作業学習 Aさんの拍手とグッジョブポーズ👍～

N養護学校の高等部では、社会に出て働くために必要な技能を身に付けることを求めがちだった作業学習から、生徒の願いを起点とした作業学習への転換を図ってきました。クッキー班では、調理の仕方や材料を変え、風味や歯ごたえなどいくつかの視点で、生徒と教師で試作と試食の繰り返しを経て販売したいクッキーを決めました。Aさんの提案したゴマ入りのクッキーは採用され、販売活動に向けて、Aさんは、ゴマ入りスノーボール（球型）クッキーを担当することになりました。

昨年は教師と一緒に計量作業だけ行っていたAさんでしたが、今年是可以ることが増え、任されたことをやり終えるたびに、班を担当する全ての教師へできたことを嬉しそうに報告する姿がありました。自分の力でやり遂げたい気持ちがAさんにあると教師は感じ、今年是可以る環境を整え、やり遂げられそうな作業を任せることにしました。

この日は、お客様においしいクッキーを作ろうという班の目標のもと、Aさんは時間内に規定の成型を終えたいと願っていました。Aさんの願いの実現に向けて、教師はいくつかの手だてでAさんを支援しました。誤りなく作業が進められるように工程表が提示され、作業がしやすいように調理器具が配置され、Aさんが安心して取り組める生徒や教師の配置で作業が始まりました。材料の配合分量が正確かどうか教師に確かめてもらったり、ボウルいっぱいの生地は練るのに力を使うので途中で教師に手伝ってもらったりし、1つずつの計量と成型作業までたどりつきました。

ここから先は集中力が続けて求められる作業です。生地を一度に秤へ乗せても規定の分量であることは稀で、秤へ乗せた生地が多ければ生地を減らす、生地が少なければ生地を増やす、正確さが続けて要求される作業の繰り返しでした。Aさんは秤の目盛から目を離すことなく、成型前のクッキーを1つずつ、1グラムも変わらずに正確な計量を続けました。途中、ため息をつきながらも休むことなく作業をし続けたことで、目標時刻前に作業を終えることができました。

教師に報告すると、正確な計量と成型ができていること、時間内に終わられたことを教師から伝えられたAさんでした。教師と一緒に拍手し、作業班の教師全員と👍を交わしていました。Aさんのがんばりと、Aさんの願いを確かにとらえ、それをかなえた教師の支援から生まれたAさんの達成感が表れていました。



▲クッキーの計量と成型を終えて先生とポーズ👍をし、拍手をするAさん

「学校の働き方改革」の今

北信地区の小学校の取組から

2学期、コロナ禍で中止となった運動会を「学習発表会」として位置付けた北信地区の小学校の取組です。連学年ごと平日の体育の授業を保護者に参観してもらうようにしました。時間も種目も思い切った削減が必要でしたが、授業では子どもがアイデアを出し合って創作したダンスで気持ちよく体を動かしている姿が見られました。「体育の授業が楽しみ」という声が聞かれたことを、先生方も励みにしていたそうです。コロナ禍に「子どもの学びを止めない」取組として臨んだ好事例ですが、動画のメッセージと重ねると、これは「学校の働き方改革」として示唆されることが多い取組であるとも言えるでしょう。

文部科学省のホームページに「学校の働き方改革」公式プロモーション動画が紹介されています。

- 教師自身が社会の構造的変化を受け止めること
- 自分が教えている教科の学びが、子どもたちの将来の社会生活にとって大きな意味をもっていることをとらえ直すこと
- 学ぶ意味や意義を教室で子どもたちに伝えること

以上の内容が扱われており、多くの先生方と共に考えられる17分間の構成になっています。

変わる初任者研修 ～教員は学校で育つ・メンター方式の導入～

今年度モデル校で試行され、来年度から拡大して実施される予定のメンター方式の概要を紹介します

これまでの初任者研修 校内研修 A:210時間 B:150時間 (年間)



1対1の指導が中心

※A 一般の初任者
B 教職大学院修了者・
3年以上講師経験者

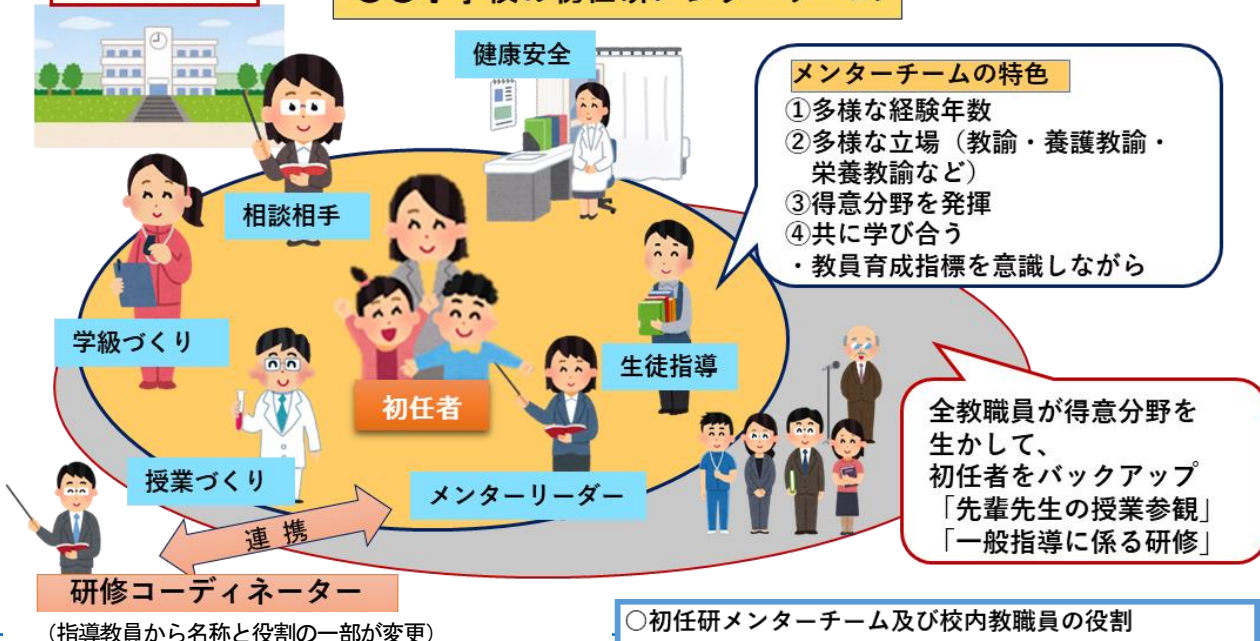
○指導教員の役割

初任者の授業と後指導、示範授業と後指導、一般指導に係る研修、自己課題に係る研修、書類の作成・整備など

R2年度「初任研メンター方式」試行 校内研修 A:180時間 B:120時間 (年間)

〇〇小学校

〇〇小学校の初任研メンターチーム



○研修コーディネーターの役割

- ・初任者の授業と後指導 (週2時間)
- ・初任研メンターチームへの指導
- ・メンターリーダーとの連絡調整
- ・関係書類の作成・整備 など

○初任研メンターチーム及び校内教職員の役割

- 「先輩先生の授業参観」 (2週に1時間)
- 「一般指導に係る研修」 (A: 週に1時間、B: なし)
- 「自己課題に係る研修」 (A: 2週で3時間、B: 2週で1時間)
- 「メンターチームによる授業づくり等に係るOJT研修」 (週1時間)

初任者が校内の組織を渡り歩いてスキルアップ
例) 4～10月: 国語科研究部会
11, 12月: 特別支援教育部会
1～3月: 道徳係会

メンター方式とは、ベテラン、ミドル、若手の教員がメンターとして、初任者の指導や助言を行ったり、一緒に授業研究等を行ったりしながら、チーム内で互いに学び合う中で初任者を育成する方式です。(※メンターとは、一般的には仕事上の指導者、助言者の意味)

今年度、北信地区では、モデル校として千曲市の小学校3校、長野市は初任者が所属する全ての小・中学校がメンター方式での初任者研修に取り組んでいます。合い言葉は、「教員は学校で育つ」。今年度、メンター方式を実施している学校の取組の様子、研修コーディネーター、初任者、メンターリーダーの先生方の感想などを、次号からの事務所だよりでお伝えしていく予定です。

「令和2年度放課後子ども総合プラン研修会」

講演会を YouTube で視聴しませんか？



「放課後子ども総合プラン研修会」は、例年、放課後児童クラブ・放課後子ども教室の指導員を対象にして実施されている研修会です。

今年度は、新型コロナウイルス感染症防止の為、オンライン（Zoom）で開催をしました。本講演会の様子は、現在 YouTube でも限定配信（URL を知っている方だけが視聴できる方式です）をしています。

講演内容は、学校の先生方にとっても、児童理解の観点から有用な内容となっています。

YouTube 配信ですので、都合の良い時間に視聴することができます。ぜひ、この機会に、放課後児童クラブについてのお話を聞いてみませんか。

視聴には、URL が必要となります。生涯学習課 担当 岡田までメールでご連絡ください。折り返し URL をお送りいたします。なお、動画の視聴は11月5日（木）までとなっております。

ぜひ、ご活用ください。

【講師紹介】

石田 かづ子（いしだ かづこ）氏

1949 年千葉県生まれ。元養護教諭、元学童指導員。

千葉市を中心に小・中学校の養護教諭として勤務、全国養護教諭サークル協議会に加盟。全国養護教諭サークル協議会研究推進委員、機関誌『保健室』の編集に携わる。共著に『ぼちぼち行こうか 保健室の窓から』（本の泉社）、『静かだったら、学校と同じじゃん』『ひきこもりからの脱出』（新日本出版社）

【講演内容】

「子どもの命を愛しむ（おしむ）・育む、放課後子ども教室・児童クラブ」

初めて指導員となった学童クラブで石田先生が出会ったのは、おやつを落とした子からの「てめえらが掃除すんだろ。拾えよ」との暴言。学校と違う、児童クラブでの子ども達の姿をどうとらえ、どう理解すれば良いのか。また、保護者との関係をどう築いていったら良いのか等、現場の課題は様々です。

多くの子ども達と関わってきた豊富な経験を踏まえた、専門的な視点からのお話をお聞けます。



■■お問い合わせ先■■

北信教育事務所生涯学習課 岡田 絵美

Tel : 026-234-9552 E-mail : okada-emi-r@pref.nagano.lg.jp

信州型コミュニティスクール

北信地区活動だより

NO. 16（令和2年10月）北信教育事務所生涯学習課 文責：指導主事 岡田 絵美

近年、日本全国で自然災害が発生し、多くの人々が被災しました。第16号では、学校と地域とが協働し、様々な組織とも連携しながら、体験的で実践的な防災訓練を行っている事例を紹介します。

信里小



「学校と地域が連携して地域の防災を考える」

■ 信里小学校の防災教育

信里小学校では、「自ら考え行動できる子どもの育成と、地域と連携した防災活動」を目指し、防災教育に取り組んでいます。

昨年度、土曜参観日に合わせて、総合防災訓練として、児童・保護者・地域住民合同での避難訓練や、地域の危険箇所確認及び避難場所の確認を行いました。今年度も土曜参観日に防災訓練を計画しましたが、新型コロナウイルス感染症防止のため、地域住民と児童・保護者とで、会場を分けての訓練となりました。

■ 親子で考え、体験する防災教育（様々な組織との連携）

新型コロナウイルス感染防止に配慮して、今年はテレビ放送による講話を聴きました。信州大学、日本赤十字社長野県支部の講師によるお話を教室のテレビで見ながら、お家の方と共に、避難所で注意することや、危険箇所について、親子で話し合いながら学んでいました。また、市の危機管理防災課の方々により設置された模擬避難所体験では、段ボールベッドに寝転んだり、簡易トイレを覗いたりして実際に使う場所を体験しました。さらに、包装食米飯（お米を専用の袋に入れて煮沸させて炊いたもの）や備蓄されている非常食クラッカーを親子で試食しました。



ポイント

日本赤十字社等
防災活動の講習会
を行う組織と連携
することで、より
実践的な防災教育
が実現できます



■ 実際の方で行う、実践的な防災訓練

体育館では、市の危機管理防災課や区長会の皆さんが、実際の避難用設備を準備し、集まった地域の方々と避難所の設営訓練を行っていました。学校が避難所に指定されており、ここで訓練したことが災害の際にすぐ役立つことになります。

避難所の設営は初めてです。段ボールベッドは思ったより丈夫ですね。これは足の不自由な方やお年寄りに座っていただくのに良いので、避難所開設の時には最初に作れば良いことが分かりました。普段は学校ボランティアとして関わっていますが、防災訓練で学校に集まることは大事だと思いました。今度は子ども達と一緒にできるといいと思います。

【訓練に参加した地域の方の声】



■ 「防災」を通して、学校と地域がつながる

学校は子ども達の学びの場であると共に、地域の方にとっての交流の場としての役割もあります。信州型コミュニティスクールの活動を通して、県内各地で、子ども達と地域の方々との交流が広がっています。それに加えて、地域の方がお茶を飲んだり、情報交換をしたりと、居場所としての役割を果たしている事例も増えてきています。今後は、防災の拠点として地域と学校とが連携していく場となることも考えられます。平成28年の熊本地震時、日頃からコミュニティスクールとして学校と地域が連携していた学校は、避難所の運営がスムーズだったそうです。日頃からの連携・協働が、いざという時に地域を支える力となります。

💡ポイント「学校で防災訓練を行うことで生まれる、地域とのつながり」

- ・学校で防災訓練を行い、地域の方に学校に来ていただくことで、学校内の様子や子ども達の様子を直接見て知ってもらうことができます。
- ・防災訓練を通して、地域の方と子ども達が共に活動することができ、顔が見える関係を築くことにつながります。
- ・子ども達が地域の方と防災訓練を行うことを通して、自分達も「地域の一員」であり、災害時には自分も地域を支える、という意識を醸成することができます。



「学校の防災管理の手引き」をご活用ください

平成30年度に作成し、県下の学校に配付された、学校における災害発生時の対応について、準備や対策、訓練などを時系列に沿ってまとめたリーフレットです。

事前の安全対策を強く意識し、学校の実情に応じた防災対策を充実させることを目的としています。

ぜひ、ご活用ください。

【お問い合わせ】

長野県教育委員会 保健厚生課 026-235-7444



地域とともにある学校づくりの充実に向けて、学校や地域に出向いての信州型CSの基礎研修や実践事例の紹介などをします。お気軽に連絡していただけたらと思います。

■■お問い合わせ先■■

北信教育事務所生涯学習課 〒380-0836 長野市大字南長野南県町686-1
Tel: 026-234-9552 E-mail: hokushinky@pref.nagano.lg.jp